

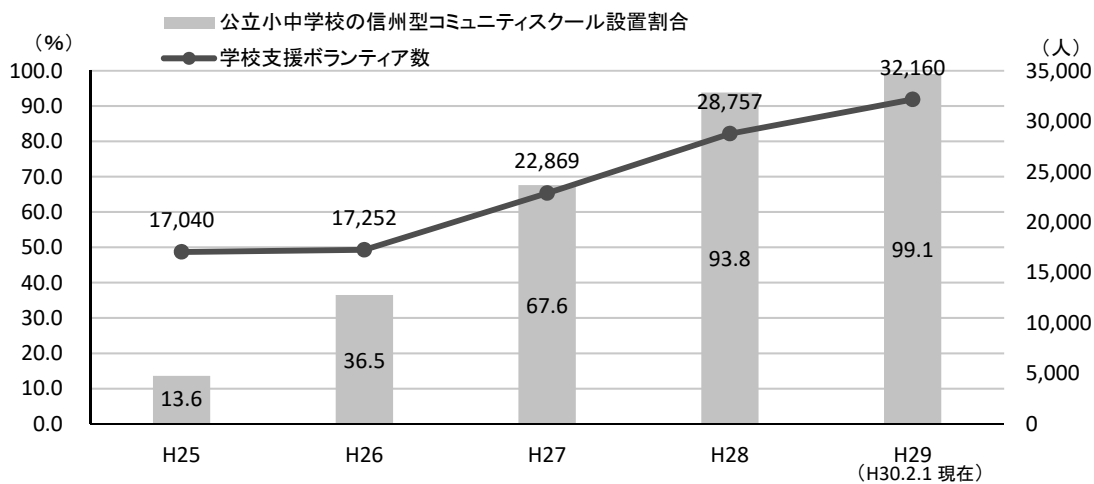
## 4 地域との連携・協働による安全・安心・信頼の環境づくり

### (1) 地域・家庭と共にある学校づくり

#### 現状と課題

- 教育課題を解決するとともに、教職員の業務を改善し、すべての授業で質の高い授業を実現するためにも、管理職のマネジメント能力の向上が求められています。
- 学校生活全般や学力、体力の向上等も含め、児童生徒の健やかな成長を促すためには、基本的な生活習慣を身に付けること等の家庭教育が重要になっていますが、家庭環境の多様化や地域社会の変化などにより、地域全体で家庭教育を支えることが求められています。
- 県内小学校の約4割、中学校の約2割が単級以下であり、児童数5人以下の単級学年が48校107学級（H29.5.1現在）となっている中、中山間地域の学校について、多くの市町村で今後の学校教育のあり方の検討が始まっています。
- 少子化が進み、複式学級の増加が見込まれる中、学校の小規模校化により集団で学び合う環境が確保できず、多様な学習経験が不足する懸念がある一方で、小規模であるがゆえに子どもにきめ細かな対応ができるなど、新たな学びの可能性も期待できます。

図4-（1） 公立小中学校の信州型コミュニティスクールの設置割合と  
学校支援ボランティア数の推移



文化財・生涯学習課調べ

### 目指す成果

- ◆ 保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域との連携・協働による、地域に開かれた信頼される学校づくりを行います。
- ◆ 小規模校の特性を活かしたきめ細かな対応ができる学校づくりを行います。

### 主な施策の展開

地域・家庭と共にある学校づくりを推進するために、次のような取組を進めます。

#### ① 学校運営のマネジメント力向上

- 教育課題を解決するために、地域・家庭と連携することの大切さについて理解を深める教員研修を実施します。
- 中堅層の教員への学校運営に関わる研修の実施や学校内での体制づくり等により学校運営のマネジメント力の向上を図ります。

#### ② 地域との連携・協働による学校づくり

- 学校運営参画、学校支援、学校評価を一体的に取り組む信州型コミュニティスクールの活動をさらに充実し、文部科学省の目指す「地域とともにある学校づくり」の施策を踏まえながら、子どもたちの成長を支え、地域を活性化していく学校と地域との協働活動を一層促進します。
- 教職員、市町村職員、学校支援に携わるコーディネーター・ボランティア等に対して、学校と地域連携に関する研修、啓発を行い、地域の教育力の向上を図ります。
- 子どもの自主性や社会性などを育むため、学校、公民館、地域住民やNPO等の団体との連携により、通学合宿などの日常生活における異年齢の共同生活体験を推進します。
- 授業評価・学校評価を実施することで、教員の資質向上と開かれた学校づくりを推進します。



ボランティアによる放課後の「寺子屋」

#### ③ 家庭教育の推進

- PTA指導者などを対象とした講演会や分科会等の研修を実施することにより、PTA活動を通じた家庭教育に関する啓発を行います。
- 地域の力を活用しながら、子育て支援と家庭教育支援の向上を図ります。
- 家庭教育を充実するため、幼年期における発育理解や困難を抱える子どもの支援、地域の実情に応じた家庭教育支援の事例紹介など、研修や普及啓発に取り組みます。
- 学校・家庭・地域が連携・協働して子どもたちの成長を支える取組を通じ、青少年期における地域活動やボランティア活動を促進し、社会の一員としての意識醸成に取り組みます。
- 学校・家庭・地域が一体となって、「早寝早起き朝ごはん」運動、信州あいさつ運動、「共育」クローバープランを推進し、子どもの望ましい生活習慣を育成します。

- 企業に対し、仕事と子育てが両立でき、子育てしやすい職場環境づくりに向けた啓発を行い、多様な勤務制度の導入を働きかけます。

④ 人口減少期における学校づくり

- 人口減少社会の中、教育の質を確保するため、小・中学校のあり方について市町村と共に検討し、新たな学校づくりを推進します。
- 中山間地域の特性とICTを活用し、新しい中山間地域の「学び」の姿を創造します。



ICTを活用した3校合同授業

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
「学校へ行くのが楽しい」と答える児童の割合（小学校）	89.7% (2016年度)	92.0% (2022年度)	教学指導課「学校経営概要のまとめ-小・中学校編」
「学校へ行くのが楽しい」と答える生徒の割合（中学校）	89.7% (2016年度)	90.0% (2022年度)	教学指導課「学校経営概要のまとめ-小・中学校編」
「子どもは喜んで学校に行っている」と答える保護者の割合	90.0% (2016年度)	93.0% (2022年度)	教学指導課「学校経営概要のまとめ-小・中学校編」

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する2023年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
学校支援ボランティア参加者数	32,160人 (2017年度)	信州型コミュニティスクールへの地域の参画傾向の測定	文化財・生涯学習課調べ

## 特色ある取組

### 大人の学びと子どもの育ちをつなげる 「信州型コミュニティスクール」

地域の方々と学校が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「信州型コミュニティスクール」は、5年間にわたる普及啓発を経て、全ての公立小中学校に取組が広がり、大人の学びと子どもの育ちをつなげる様々な活動が各地で進められています。

王滝小学校で行われている「わくわく人権講座 みんなの樹業」は、学校と地域の課題を重ねて解決しようと平成24年度から始まった、信州型コミュニティスクールの特長的な取組事例の一つです。

王滝村は、平成29年度の人口が777人(平成30年1月1日現在)で、小学生が22人・中学生15人と小規模な村です。子どもたちにとっては、核家族化や少人数の同級生とのつながりなど人間関係の狭さが、一方村では、高齢化によるシニア世代の生きがいづくりや住民同士の支え合いの仕組みづくりが課題となっています。

ある日の樹業のテーマは「うれしかったこと」。子どもたちは、地域の大人たちや先生とともに学年の異なる4つのグループに分かれ、桜の花びらの形をした画用紙にうれしかったことを記入していきます。各グループの小学4年生や5年生が進行役となり、どんな出来事だったのか、なぜそれを選んだのかをそれぞれ発表し合います。そしてこの花びらを、公民館の壁いっぱい描いた桜の大木に張り付けると、村のみんなの想いが詰まった桜の花が咲いていきます。

終了後は、校長室で、先生方と地域住民が公民館主事の進行で振り返りの会を行います。「学級担任は日々子どもたちの成長の瞬間と向き合っています。一方で社会教育は時間の経過を経た子どもたちと関わることで、長いスパン中での子どもの変化を見ることができません。学校教育と社会教育とが連携したこの取組の、大事なポイントの一つです。」

学校を開き、地域の方たちと同じ場面で子どもたちとふれあうことで、多様な側面から子どもたちの状況や育ちを見守る機会は、子どもたちを共通の話題とした教師や地域の大人たちの気づきや学びの場にもなっています。

